

MIRAI REPORT

ISSUE. 025

▶NoMaps釧路・根室2025 vol.2

- I カンファレンス4 「自然がつなぐ道東～国立・国定公園と広域観光の未来図～」
- II カンファレンス5 「災害に備え、未来につなぐ」
- III 高校生ビジネス&地方創生コンペティション
- IV NoMaps釧路・根室2025を終えて



NoMaps 釧路・根室 2025

11.20 木 会場: 港まちベース946BANYA

Conference IV 15:40~16:40 現地参加・オンライン同時開催

自然がつなく道東
～国立・国定公園と広域観光の未来図～

鳥類が370種以上記録され、ひとつの自然公園としては類を見ない圧倒的な景観を有する野付風蓮。将来の国定公園化を見据え、この貴重な自然公園をどのように守り、どのように次世代へと活かしていくべきかが問われています。また、活かすことで、真に守られるべき自然公園をどう描くか。自然がつなく道東観光の未来図を展望しました。



根室市観光協会
事務局長

有田 茂生 氏



北海道根室振興局
局長

所 健一郎 氏



北海道旅客鉄道株式会社
釧路駅 駅長

金山 宜史 氏



モテレーター
北海道大学大学院工学研究科
特任教授

中山 隆治 氏

パネラー 有田 茂生 氏

2014年根室市地域おこし協力隊の根室自然野鳥観光推進員に着任。2017年から根室市観光協会職員として、ねむるバードランドフェスティバルや花咲線PRなどを担当。根室・釧路地域の自然の楽しみ方や魅力を発信しています。

風蓮湖・春国岱は、独特な地形と圧倒的な景観を有し、季節ごとに異なる自然の表情を見せてくれる場所です。春には何千羽ものオオハクチョウが飛来し、夏にはタンチョウが子育てを行い、秋には多くの渡り鳥が訪れ、冬にはオオワシやオジロワシが集まります。このように四季を通して多様な鳥類が利用する重要な湿地として評価され、2005年にラムサール条約に登録されました。

地域では2008年から根室バードランドフェスティバルを開催し、当初は地元の方々に野鳥の価値を知って

もらうことを目的としていましたが、現在ではツアー造成などを通じて、観光として地域経済に還元される取り組みへと発展してきました。漁師の方々によるクルーズや体験型プログラム、市民ガイドの育成など、自然と産業を結びつけた動きも広がっています。また、根室には風蓮湖・春国岱以外にも、歯舞湿原や落石地域など、まだ十分に知られていない貴重な自然が数多く残されています。近年はインバウンド宿泊者数も回復傾向にあり、特に冬季の需要が高まっています。ガイド育成や海外での的確なプロモーション、ロングトレイルやシーニックバイウェイ、花咲線といった交通資源を生かし、地域をじっくり味わってもらう観光を進めていきたいと考えております。自然を守りながら活かす観光を、今後も地域の皆さんと共に育ててまいります。

パネラー 所 健一郎 氏

足寄郡足寄町出身。北海道大学法学部卒業後、1993年10月に道庁へ入庁。総合政策部次世代社会戦略局長、総合政策部官民連携推進局長を経て、2024年4月から現職。今回初の根室管内勤務。趣味はガーデニング。

根室管内は多くの自然公園を有する地域でありながら、観光客数は道内でも決して多いとは言えない状況にあります。特に全道14振興局の中で観光入込客数は11番目、年間約190万人にとどまっており、近隣の釧路管内と比べても4分の1程度です。外国人観光客については、バードウォッチングを目的とした台湾などからの来訪が多いものの、全体としては伸び悩んでいます。そのため、まずは釧路を訪れた方々に根室まで足を延ばしていただくことが重要だと考えております。

こうした中で、野付半島・風蓮湖・根室半島地域の国立公園化は、大きな転機になると期待しています。道東一円を見渡すと、釧路湿原、阿寒摩周、知床といった国立・国定公園が連なっています。ここに、**野付半島・風蓮湖・根室半島地域が国定公園として位置づけられることで、道東全体が国立・国定公園でつながり、周遊観光の促進**につながると考えております。

現在は、子どもたちと一緒に地域を歩く「みらいの国定公園探検隊」などの取り組みを通じて、地元の魅力を再発見し、認知度向上にも力を入れています。将来的には、花咲線や釧網線、バードウォッチング、道東を一周するロングトレイルなどを組み合わせ、根室ならではの観光の柱を育てていきたいと考えております。国定公園化を契機に、根室の価値をより多くの方に知っていただけるよう取り組んでまいります。

パネラー 金山 宜史 氏

慶應義塾大学経済学部卒業後、1995年にJR北海道に入社。各地で現場での実務経験を積む。本社では営業部で収入管理や販売促進、ダイヤ改正などを担当、総合企画本部では花咲線・釧網線の利用促進、MaaS、kitakaカード施策などを担当し今年6月より現職。

花咲線は、釧路から根室までを結び、釧路町、厚岸町、浜中町、根室市を貫く路線です。沿線には、湿原、森、海岸といった多様な自然景観が連続しており、まさに「地球探索鉄道」と呼ぶにふさわしい路線だと考えております。専用の観光列車は走っておりませんが、普段運行している普通列車そのものを観光列車として楽しんでもいただくため、さまざまな工夫を重ねてきました。

その一つが、**スマートフォンアプリを活用した音声ガイド**です。列車が特定のスポットを通過する際に、その土地の自然や見どころを音声で案内する仕組みで、移動そのものを体験価値に変える取り組みです。また、沿線ではエゾシカをはじめとする野生動物を車窓から見る機会も多く、特に道外からのお客様には非常に好評です。運転士が警笛を鳴らし減速する場面では、動物が近くにいることも多く、自然との近さを実感していただける瞬間だと感じております。

景観面では、厚岸湾、別寒辺牛湿原、落石海岸など、列車が意図的に速度を落として走行する区間を設け、ゆっくりと景色を楽しめるよう配慮しています。海と陸の両方に広がる雄大な風景は、日本に異国のような印象を受ける区間でもあります。さらに、駅弁の事前予約サービスや、スマートフォンだけで利用できる花咲線フリーパスの導入など、利便性向上にも取り組んでおります。外国人向けのレールパスや、日本人向けの各種フリーきっぷとも組み合わせることで、**根室駅が「日本最東端のJR駅」であるというストーリー性**も観光価値として生かせると考えております。

花咲線は単なる移動手段ではなく、沿線の自然や暮らし、物語を体感していただくための重要な観光資源です。今後も地域の皆さまと連携しながら、路線の魅力を多くの方に届けていきたいと考えております。

モデレーター 中山隆治氏

環境省職員として、国立公園の計画・管理・整備等に本省・現場双方で長年従事。小笠原諸島の世界自然遺産登録や各地の国立公園のインバウンド誘致、さらには根室の国立・国定公園化が提案された「国立・国定公園の総点検事業」を担当。釧路自然環境事務所次長、内閣参事官（地方創生担当）や東北・中部地方環境事務所長、北海道大学総長補佐、公共政策大学院教授等を歴任。

現在、北海道大学の教員をしておりますが、もともとは環境省の職員として30年以上勤務し、国立公園の管理や制度設計にも携わってきました。釧路にも勤務経験があり、2009年には、本日のテーマとなる根室地域の新たな国定公園を含む、新たな国立・国定公園指定の検討を本省で担当した経緯から、本日のテーマには特別な思いがあります。

国立公園はもともと「保護」と「利用」を両立させる制度であり、適切な利用があつてこそ自然は守られるという考え方に基づいています。現在、国際的には2030年までに陸域・海域の30%を保全する「30by30」が目標とされており、日本でも国立・国定公園の拡充が進められています。その流れの中で、野付風蓮・根室半島地域は新たな国定公園候補地として位置づけられています。

この地域には、全国的にも希少な自然草原や湿地、生物多様性に富んだ沿岸域が広く残されており、広大でダイナミックな自然景観は、日本全体から見ても極めて価値の高い、ここだけにしかない特別なものです。加えて、酪農や水産業といった一次産業、タンチョウや猛禽類などに彩られた世界的なバードウォッチングの場としての魅力も併せ持っています。今後は、**守るべき核心的な自然を厳格に保全しつつ、この自然や酪農・水産業の景観、花咲線の車窓景観なども生かした観光利用を進めることで、地域の価値を高める国定・国立公園の姿を描いていくことが重要**だと考えております。



*カンファレンス内容の一部を要約しています。
カンファレンス4の全容は下記に動画を掲載しています。
ぜひご覧ください。
YouTube「NoMaps釧路・根室」で検索🔍

<https://www.youtube.com/watch?v=deyOKsKAreI>

NoMaps 釧路・根室 2025

11.20 木 会場: 港まちベース946BANYA

Conference V 17:00~18:00 現地参加・オンライン同時開催

災害に備え、未来につなぐ

千島海溝沿いで発生が想定される大きな地震津波。近年、想定を超え発生する大雨大雪、強風等の気象災害。ここに住む私たちは、いかにこれら災害に備え、被害を最小限に抑え、この地域を未来につないでいくべきか。日常生活、地域産業、自治体行政、それぞれの視点からこの地域の防災、BCPについてあらためて考えました。



北海道大学
名誉教授

岡田 成幸氏



浜中町
副町長

石塚 豊氏



釧路江南高校3年
ビジコン受賞者

山下 祐奈氏



標茶町農業協同組合
代表理事組合長

鈴木 重充氏



モテレーター
公益財団法人
釧路根室圏産業技術振興センター
専務理事

草薙 敏夫氏

パネラー 岡田 成幸氏

北海道大学大学院工学研究科を修了後、北海道大学、名古屋工業大学、東北大学等で退職まで教育研究一筋の道を歩む。現在は、アジア航測株式会社に籍を置きつつ、北海道大学複合災害研究センター客員教授として活動。

1993年の釧路沖地震で、各世帯を一軒一軒訪問し、聞き取り調査を行いました。というのも、これまでは「建物を耐震化すれば人的被害は減る」というのが常識でしたが、実際の被害分布を見てみると、**建物が大きく壊れていない場所でも多くの方がけが**をしていたからです。そこで、「家の中で何が起きているのか」を明らかにするため、住民の皆さんにヒアリングやアンケートを行ったところ、室内での被害の実態が少しずつ見えてきました。

その結果分かったのは、**けがの多くが「家具が倒れてくる危険な領域を動き回ったこと」**によるものだという事です。実際、在宅時に負傷する人は全体の1割

程度ですが、そのほとんどが家具転倒の危険がある場所で動いていました。揺れが収まるまで、家具が倒れてこない「安全領域」でじっとしていることが、**何より重要**だと分かりました。家具の固定についても、震度6強以上では一般的な固定方法では不十分な場合が多く、完全な安全対策にはなりません。そこで、家具の配置を見直し、倒れてこない空間、いわゆる安全領域を部屋の中に必ず確保することが重要です。

マンションでは停電により断水が発生し、トイレが使用できなくなる可能性があるため、携帯トイレの備蓄が不可欠です。また、防寒具はタンスなどに収納されていることが多く、地震で家具が倒れると取り出せなくなる恐れがあります。さらに、避難時には汗をかいたため、着替え用の下着を持ち出し品として準備しておくことが望ましいです。

こうした点を**日頃から意識し、備えておくことが、命を守る防災につながると**考えています。

パネラー 石塚 豊 氏

浜中町出身。2016年から水産課長として、海岸保全施設の堤防陸閘等を担当。2018年から防災対策室長として、浜中町の防災対策全般を担当、津波避難タワーの整備や町総合防災訓練等を推進。2023年11月より現職。

私は役場職員として勤務する中で、必然的に災害対策本部に関わってきました。これまでさまざまな災害対応や防災対策に携わり、2018年からは防災対策室長として町全体の防災対策を担当してきました。

浜中町の防災の特徴は、過去の津波被害を教訓に整備してきた防潮堤です。沿岸部には高さ4~5メートルの堤防が整備されており、2011年の東日本大震災の際には、この堤防を境に市街地側への浸水が防がれ、町を守る大きな役割を果たしました。

一方で課題もあります。毎年実施している津波避難訓練については、東日本大震災直後には住民の約4割が参加していましたが、近年は参加率が20%台前半にとどまり、その多くが高齢者となっています。若い世代への防災意識の啓発や教育については、引き続き取り組む必要があると考えております。

千島海溝沿いの巨大地震・津波想定では、最大震度は7、最大津波高は20.3メートル、津波到達時間は27分から36分とされ、夜間発生時の最大死者数は2,700人、住民の約9割に相当する極めて厳しい想定です。

浜中町では、**地震発生から10分以内に避難を開始しなければ、高台や避難場所があっても間に合わない地域が多い**ことが分かっています。そのため、「10分以内の避難開始」を重点目標として対策を進めております。高台が近くにない地域では、津波避難タワーの整備などにより、確実に避難できる環境づくりが必要です。今後も、命を守る行動につながる防災対策を継続して進めていきたいと考えております。

パネラー 山下 祐奈 氏

中学生まで阿寒町で育つ。幼い頃から釧路市の防災対策について関心があり、「総合的な学習の時間」にて、釧路市の防災を探求。FMくしろ学生パーソナリティにも参加。

避難場所と避難所の違いの一つは、備蓄の有無にあります。私の通う高校は、避難場所と避難所の両方に指定されており、備蓄が用意されています。ただ、備蓄数量を見て、多くの市民が避難してきた場合、この数では足りないのではないかと思います。防災について探究を進めてきました。

備蓄ですが、釧路市内には各所に分散して配置されています。釧路は川が多く、通勤や通学で橋を使う機会も多いと思います。地震が起きた際、もし橋が壊れたら備蓄が配給されないのではないかと不安になりますが、**釧路市では分散備蓄方式**が取られているため、橋が使えなくなっても対応できる体制になっています。

また、探究活動の一環として、約120人の方にアンケートを実施しました。「自宅から一番近い避難場所を家族と確認していますか」という質問に対して、半分に満たない方しか確認していないことが分かりました。さらに、「休日に避難訓練があった場合、参加しますか」という質問では、参加すると答えた方は約2割にとどまりました。この結果から、防災意識がまだ十分に高まっていないと感じました。

この探究を通して、より多くの方が防災を自分ごととして考え、防災意識を高めていくきっかけになれば良いと強く思っています。



パネラー 鈴木 重充 氏

標茶町虹別出身、酪農家の3代目に生まれ帯広農業高校卒業後、単身アメリカで牧場実習生として約11か月過ごす。帰国後、牧場を継ぎ、2021年6月に現職。

1993年の釧路沖地震、1994年の北海道東方沖地震の際には、地元消防団に所属し、牧場の被害確認よりも先に地域の安否確認や巡回を行った記憶があります。また、2018年の**胆振東部地震**では、**停電が長期化**するとは想定しておらず、大きな教訓となりました。搾乳作業ができず、水道や地下水ポンプも止まり、牛の飲み水や洗浄水の確保に大変苦労しました。

当時、私は農協の専務理事として対応にあたりましたが、**BCPIはほとんど機能せず**、組合員の皆さまに多大なご迷惑をおかけしました。一方で、過去の災害を経験してきた年配の組合員が、古い発電機を使ったり電源を融通し合ったりと、非常に頼もしい対応をされていたことが強く印象に残っています。

これらの経験を踏まえ、**現在では多くの農家に自家発電機を設置するなど、災害への備えを進めてきました**。また、最近の津波警報では、直接被害のない山間部でも家畜市場が停止するなど、間接的な影響の大きさを実感しました。こうした事例も含め、今後の防災対策としてしっかり取り組んでいかなければならないと考えております。



モデレーター 草苺 敏夫 氏

北海道工業大学（現北海道科学大学）建築学科卒業、北海道大学大学院工学研究科建築専攻修了。1986年釧路工業高等専門学校建築学科講師、2003年同校教授、2022年定年し現職。専門は建築耐震構造、地域防災。

今年の釧路地域の自然災害を振り返った時、2月には記録的な大雪があり、7月には3日連続の真夏日を観測しました。9月には線状降水帯も発生し、11月には釧路市で最大瞬間風速30.7mの強風を観測するなど、1年を通して自然の厳しさを強く感じる年でした。

過去の地震について目を向けると、釧路沖地震、北海道東方沖地震、2003年の十勝沖地震を経験してきました。2011年の東日本大震災では、釧路市にも約2.1メートルの津波が到達しましたし、2018年の胆振東部地震では北海道全域がブラックアウトに見舞われました。また、記憶に新しいカムチャツカ半島付近の地震では、津波警報が発令され、実際に避難された方もいらっしゃるのではないかと思います。今後、千島海溝・日本海溝沿いの巨大地震の発生が危惧されるなど、**釧路・根室地域は地震・津波のリスクを常に抱えていることを意識していただければと思います。**



*カンファレンス内容の一部を要約しています。
カンファレンス5の全容は下記に動画を掲載しています。
ぜひご覧ください。
YouTube「NoMaps釧路・根室」で検索🔍

https://www.youtube.com/watch?v=UMC1C_fxt5A

高校生ビジネス&地方創生コンペティション

日時 2025年12月18日(木)
場所 釧路プリンスホテル

釧路・根室管内の高校生が、地元の現状課題を検討分析し、産業振興や地域活性化に資するビジネスプランを創造する機会を通じて、高校生の起業家精神を育み、人材育成を図ることを目的に実施している事業で、第7回目を開催いたしました。今回は13校33チーム124名の応募をいただき、書類選考を経て当日は13校20チーム81名が発表いたしました。

- 参加校 根室高校1チーム5名／中標津農業高校1チーム4名／標津高校1チーム4名／羅臼高校1チーム4名
釧路湖陵高校8チーム31名／釧路江南高校1チーム3名／釧路商業高校1チーム2名
釧路東高校2チーム10名／厚岸翔洋高校2チーム4名／標茶高校4チーム11名
弟子屈高校1チーム16名／白糠高校6チーム15名／北陽高校4チーム15名
- 審査員長 伊藤 博之（クリプトン・フューチャー・メディア株式会社 代表取締役）
- 審査員 草苅 敏夫（釧路工業技術センター センター長）
長尾 和彦（釧路工業高等専門学校 理事・校長）
伊藤 直人（北海道教育庁釧路教育局 局長）
遠藤 直俊（北海道教育庁根室教育局 局長）
中村 研二（釧路公立大学 地域経済研究センター センター長・教授）
和地 輝仁（北海道教育大学釧路校 キャンパス長・教授）
伊藤 哲也（大地みらい信用金庫 理事長）

■結果

賞	高校名	チーム名／発表名
最優秀賞	厚岸翔洋高校	缶詰で地域の魅力を伝え隊／ 厚岸産灯台トップ×地元農産物による新商品開発とブランド化プロジェクト
優秀賞	標茶高校	Deer Labo／ つながる食材、つながる命～命と地域がめぐる食のかたち～
優秀賞	白糠高校	しそぶるず／ 白糠町と紫蘇の認知度UP
みらい賞	中標津農業高校	肉加工研究班／ エゾシカをプロデュース～"まるっと"エゾシカ普及計画～
みらい賞	弟子屈高校	Miu17／ ひとつ屋根のまちづくり
みらい賞	標津高校	Reyouth Tooth～令和の黒華麗～／ 未利用魚から未来へ～命から喜び・未利用魚を通して「命」を考える
みらい賞	厚岸翔洋高校	厚岸の魅力を海の向こうへ！／ 地域の魅力を海の向こうへ！
審査員特別賞	釧路東高校	釧路東高校A／自然を守る小さな一歩
審査員特別賞	羅臼高校	羅高PRゼミ／なまらハンパない!!!羅臼町～地元愛×羅臼高校生＝∞～
審査員特別賞	釧路北陽高校	観光大使／くしろ観光三世代プラン



NoMaps釧路・根室を終えて

NoMaps釧路・根室2025実行委員会 実行委員長 草苅 敏夫



11月20日のカンファレンス・ミートアップを皮切りに始まったNoMaps釧路・根室2025が、12月6日にRapportフォーラム2025を、12月18日に高校生ビジネス&地方創生コンペティションを行ない、無事に終了することができました。今回、実行委員長として携われたことを大変光栄に思います。ご参加いただいた皆さま、登壇者の皆さま、そして運営にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます。

今回のNoMaps釧路・根室2025では、この地域で人が生き抜くために不可欠な要素として医・食・住を取り上げ、維持・発展させていくための方策やアイデアについて幅広い分野で活発な議論や提案が行われました。

カンファレンス・ミートアップでは、この地域を訪れてもらうにはどの様にすれば良いか、住んでもらう、あるいは住み続けるためには何が必要かを街づくりや観光・宿泊、エネルギー、健康維持、防災、を切り口として議論が行われ、地域の未来を考える貴重な機会となりました。私も防災のカンファレンスでモデレータをつとめさせていただき、地元の高校生を交えたディスカッションでは有意義な時間を過ごすことが出来たことを大変感謝しております。セブン銀行の松橋社長が講演されたRapportフォーラム2025では、ATMが作り出すデジタル社会の未来を垣間見ることが出来、それを担うデジタル人材（人財）育成の必要性を認識することが出来ました。高校生ビジネス&地方創生コンペティションには、新たに2つの高校に参加していただき、回を重ねるごとに盛んになることを嬉しく思っています。発表された高校生の皆さんからは地元を何とかしたいという熱い思いを感じることが出来、遠回しですが「大人も都合を抜きに頑張らないとダメ」と言われている気がしました。発表された皆さんの今後の活躍を期待しますとともに、後輩が引き継いでくれることを願っています。

NoMaps釧路・根室は、今回で7回目を終了することが出来ました。これまで色々なネットワークが構築され、様々なアイデアが生まれてきましたが、これを活かし、持続可能な地域社会を作るためには具体的な行動と協働が必要になります。


この地域の未来のために、力を合わせて前を向いて進みましょう。

来年のNoMaps釧路・根室で再びお会いできることを楽しみにしています。

【ミートアップ】


人口減少が進む中、税収減少にともなう市民サービスの低下、空き家問題など、諸問題が懸念されています。釧路の魅力を確認し、関係人口の創出につなげるべく民泊・長期滞在・二地域居住を切り口としてディスカッションいただきました。

ミートアップについては入場者だけ聞くことのできる特別な内容となっており、詳細は非公開です！来年度もミートアップを予定しておりますので、是非会場へお越し下さい！



2026.03

MIRAI REPORT ISSUE.025

 **大地みらい信用金庫** 経営企画部
地域みらい創造センター